

6. 事業内容	コモロ車検センターと協働して事業を実施する。 (ア) 教材準備・研修内容打ち合わせ 研修の補助教材として関連動画・画像の取込作業を国内で実施。試験内容について教官間で擦り合わせ及びパワーポイントにて補足資料作成を現地で実施。整備・点検テキストの追加分のテトゥン語への翻訳作業。 (イ) 研修生募集 コモロ車検センター(DNTT)5名の他に市民工場5名、政府機関5名の計15名を募集する。 (ウ) 研修生素養テスト 研修開始時に素養テストを実施し、研修員の能力を把握する。 (エ) 整備機材等の導入 簡易整備・点検研修施設に整備点検機材を現地及び国内調達する。国内調達については輸送する。 (オ) 開講式実施 日本大使館、運輸省、雇用省等に列席頂き実施する。 (カ) 点検整備教育及び検査員基礎研修の実施 実習車(オートバイ・自動車)を用いて、自動車検査員に必要なオートバイ・自動車の点検及び構造や検査機器の知識を習得させる。 (キ) 技能判定試験 研修終了後、8カ月の研修把握の為に技能判定試験を実施する。 (ク) 研修見学実施 政府機関以外の団体に対しJDRACの研修を見学させ車検項目、検査要領を理解させるとともに、併せて日本の車検システムを紹介する。 (ケ) バウカウ視察 自動車登録を実施している政府機関の現状を調査する。 (コ) ワークショップ実施 ディリ市内で一般市民を対象に無償で点検整備のワークショップを開催する。研修生が実習により点検の重要ポイントを理解し、技術の向上を図ることを目的とする。一般市民も車両点検を受けることで整備の重要性を認識し安全意識を向上させる機会となる。併せて日本の車検システムの紹介、車検制度向上の啓蒙の場として活用する。 開催場所：①コモロ車検センター②ディリ技術学校(DIT) 人数：①②とも役100名 期間：①7月上旬②9月上旬 各回とも1時間～1時間半/日 持続可能な開発目標(SDGs)の目標4.4に該当する。
----------------	---

7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	① 簡易整備・点検研修施設を建設し、サイドスリップテスター及びヘッドライトテスターを設置し、整備事前教育を実施した。 (ア) 簡易整備・点検研修施設建築に際し、車検機器設置等設置の為に、建物の最終合意に時間を要した。工事開始から手抜き工事が無いように毎日立ち会い、施工に万全を期した。工事状況を毎日撮影し、画像を日本の建築士に送り意見を求め、建築士のアドバイスを現場の作業員に伝えることで丁寧に施工させた。建築管理を徹底することで、当団体の事業目的に合致した施設の完成に努めた。その結果、工事内容、工期共に予定通り進捗し完成に至った。 (イ) 1カ月の基礎教育を経て、2期からの本格的研修の準備体制が整った。 ② 事業開始直前に急ぎ、DNTTの全面舗装工事が始まり、その影響で申請書に掲げた簡易整備・検査施設の建設位置及び設計に手直しが必要となった。前触れなく状況の変わる東ティモールの国情に照らし、調査段階から事業開始に至るまで継続的に情報を収集すべきであったが、現地在住の非常勤の連絡員のみに依存して、結果的に状況の把握は不十分であった。 ③ 自己資金をもって現地事務所を事業終了後1カ月間置くことで通年事務所開設体制をとり、現地と本部の情報の伝達を確実なものにする。また、現地政府機関との関係を密接にする。 ④ 3期終了後に、検査員の技術レベルを向上することで、やりがいをもって仕事に従事するようになる。その第一歩として1期事業では、安全な自動車社会を構築する一員として、研修員に車検員としての自覚と誇りを植え付けた。
8. 期待される成果と成果を測る指標	(ア) 設備機材が設置され、検査員養成の基礎である整備教育及び検査員基礎教育が行われる。この結果、3期で行われる専門的な教育の基礎が整う(研修実施間、技能及び知識を評価するためのテストを適時に実施し、研修開始時に素養テスト、研修終了後に技能判定テストを実施し、研修成果を把握する)。 (イ) ワークショップを実施することで、一般市民に対し、整備点検の重要性を認識させるとともに、日本の車検制度を知ってもらう(参加者数を指標とする)。